

## 「V着」存在文の分類と形容詞状語の意味について

野 田 耕 司

1. はじめに
2. 「V着」存在文の分類
  - 2.1. 静態存在文の分類
  - 2.2. 動態存在文の分類
3. 静態存在文における形容詞状語
  - 3.1. 静態存在文中の形容詞状語の意味
  - 3.2. 「V着」存在文と「V在」所在文
4. 動態存在文における形容詞状語
5. まとめ

### 1. はじめに

拙稿2011では、次のような動作文における形容詞状語の描写対象（語義指向）と意味について述べた（例文の後の（ ）は出典を示す）。

- (1) 说到这里，他悲伤地流下了眼泪。(中学生)
- (2) 我焦急地等待着老师宣布这次考试分数。(中学生)
- (3) 全家人在一起喜气洋洋地过春节。(HSK听力自测)
- (4) 一只老鹰，平伸着翅膀，在慢腾腾地盘旋。(重叠)
- (5) 爸爸、妈妈临走时说的话，你一定要牢牢地记住。(常用词)
- (6) 他圆圆地画了一个圈。(用法)
- (7) 他离我很近，我清晰地闻见了他身上的酒气。(雅虎)

(8) 张氏意外地碰了一个钉子, 也并不生气。(新编)

上記の動作文では、状語(直線部)が波線部の語句を描写対象とし、上からそれぞれ、(1) 動作者の心理変化、(2) 動作者の心理状態、(3) 動作者の態度・表情、(4) 動作の様態・方式、(5) 動作達成後の結果状態、(6) 受動者の結果様態、(7) 受動者(=知覚・感覚対象)に対する感覚上の様態、(8) 事態に対する話者の心的態度、を表している。

存在文もまた、次のように形容詞を状語にとることが可能であるが、

(9) 售票窗口前规规矩矩地站着长长的购买车票的队伍。(雅虎)

(10) 桌上零散地放着报纸、杂志。(作文)

(11) 那时天边上只淡淡地浮着两三片白云, 我们坐在船头, 望着前面, 前面就是我们的世界。(CCL)

形容詞の種類によっては、状語として用いると文が成立しないか不自然な場合もある。

(12) \* 院子里高高兴兴地站着几个男女。

(13) ? 院子里无精打采地站着几个男女。

しかしながら、同じく「ある場所に立った」状態の持続を表している「V在NL」(Vは動詞、NLは場所名詞を表す)を述語とする文(以下、「V在」所在文と称す<sup>1)</sup>)である(14)では、(12)では用いることのできなかつた形容詞を状語にすることが可能である。

(14) 有一位母亲带着5岁的男孩乘公共汽车, 上车坐了一段路程后, 一位年迈的老婆婆上车了, 母亲起身让座, 并对男孩说: “来, 小大人儿, 站一会, 看看

能不能坚持住。”小男孩高高兴兴地站在坐椅旁，并认真地扶着坐椅不让自己摔倒。(雅虎)

存在文の状語として“高高兴兴(地)”を用いることができないのはなぜなのか。本稿は、存在文、なかでも「V着」存在文における形容詞状語の意味特徴を、動作文や「V在」所在文と比較することにより明らかにするとともに、形容詞状語の描写対象や意味などから、「V着」存在文と「V在」所在文の意味と表現上の相違を探ることを目的とする。

存在文に現れる形容詞状語について述べたものとしては、李临定1986、郑贵友2000、卢建2003、张先亮・范晓・等2010、任鹰2005が挙げられる。このうち、形容詞状語の研究から存在文中の状語に触れているのは郑贵友2000、卢建2003である。

郑贵友2000において目的語を描写対象とする形容詞状語を含む文のタイプの一つとして挙げている“呈现”類に現れる状語の一部(例文(15))、主語と目的語の両方を描写対象とする状語を含む文のうち“后因”式と呼ばれるタイプの文に用いられる状語の一部((16))の2種類が、まさに存在文中に現れる形容詞状語に相当する。

(15) 书架上整整齐齐地放着一本书。(郑贵友2000)

(16) 夹袍的胸部花花哨哨地绣着一些花鸟图案。(郑贵友2000)

郑贵友2000は“呈现”類の形容詞状語文について、その述語動詞(例えば“坐、积、放、画、拿、漂、飞、走……”)は“呈现”性を具え、状語は述語動詞によってもたらされた一時的・暫時的な様態を表し、その様態を目的語が呈するとし、状語の形態としては、単音節のものは用いられず、また二音節形容詞であっても人や事物の恒常的な属性を表すものは単独では現れ難く(例文(17))、通常、程

度副詞を伴ったり、重ね型にするなど複雑形式で用いる ((18) (19)) とする<sup>2)</sup>。

- (17) \* 路边高大地立着几座架线铁塔。(郑贵友2000)
- (18) 路边非常高大地立着几座架线铁塔。(郑贵友2000)
- (19) 路边高高大大地立着几座架线铁塔。(郑贵友2000)

(17) は状語がごく当たり前の様態を述べていることもあり、情報価値の低い文であるが、(18) (19) の状語のように目的語名詞句が呈する様態を誇張して述べることによって、文全体の描写性が高まり、容認度も高まるのだと言える。なお、郑贵友2000では、“呈现”類の形容詞状語文が成立するための条件として、状語に“暫定性”とともに“夸说性”が認められることを挙げている。よって、この種の形容詞状語文には通常、恒常的な属性を表す性質形容詞(単音節形容詞、一般の二音節形容詞)ではなく、重ね型形容詞など複雑形式をとる状態形容詞が状語として用いられるのである。

一方、“后因”式の形容詞状語文とは、目的語として具現化する事物が状語で表されるような様態を呈することによって、主語で表される事物(多く場所)もまた状語で表されるような様態を呈するという、「目的語から主語へ」すなわち「後から前へ」の因果関係をもつものを言う<sup>3)</sup>。例えば、(16) では刺繍された花鳥の図案(目的語名詞句)が派手なため、あわせの長上衣の胸部(主語名詞句)も派手であるという因果関係を有する。述語動詞はやはり、“呈现”性あるいは持続性を具え、状語となる形容詞には単音節形容詞や二音節形容詞が単独で現れることはなく、重ね型などの複雑形式がかなり高い割合で用いられる<sup>4)</sup>。

卢建2003は、“黑板上圆圆地画了一个圈儿。”のような存在義を有する構文を、目的語である事物の様態を描く状語(摹物状語)を含む「描写連用修飾構文」の連続体の中に位置づけ、このタイプの構文は“妈妈稠稠地熬了一锅粥。”のような、動作者主語が明確な意志を持って受動者目的語を状語で示される様態に致らしめる典型的な描写連用修飾構文から派生してできたものとする。同2003によ

れば、“摹物状語”を含む描写連用修飾構文のうち、最も周縁に位置する構文は、述語動詞に使動性や意志性が認められない“树上红红地挂着几个苹果。”のようなタイプの「V着」存在文とされる。

存在文の研究において、存在文中の形容詞状語の描写対象や意味について触れているのは、李臨定1986や、過去の存在文研究を整理、分析し、体系を示した張先亮・范晓・等2010と、認知言語学的観点から存在文を扱った任鷹2005である。

ただ、李臨定1986, 73-91では、存在文を述語動詞のタイプごとに7つに分け、その中の“坐”型、“挂”型、“绣”型、“飘”型について、動詞の前に“状态状語”を置くことができると述べているだけである。

また、張先亮・范晓・等2010, 108では、“形容词充当的状語，在存在句中一般后指宾语，描述宾语的状态；只有作状語的“满、满满”既可前指NP<sub>1</sub>（引用者注：主語名詞句のこと），描述处所显现的饱满状态，也可后指NP<sub>2</sub>（引用者注：目的語名詞句のこと），表现其量多。”と述べるにとどまる。

任鷹2005は、本稿にとって重要な研究であり、次の形容詞状語を含む存在文が不自然であるのにもかかわらず、所在文のほうは成立している理由について述べている。

(20) ?路上无精打采地走着一个人。(任鷹2005)

(21) 一个人无精打采地走在路上。(任鷹2005)

その詳細は本稿の3、4の関連する箇所述べることにするが、本稿では、任鷹2005の考えを基本的に支持しつつ、その考えを修正、補強するものとして存在文と形容詞状語の関係について更に詳しい分析と解釈を試みる。

管見では上記の研究の他に、存在文中の形容詞状語に特化した研究は見当たらず、状語の研究において目的語を描写対象とする状語の例として存在文中の状語が挙げられてはいるものの、存在文を動作文と明確に分けて、状語の特徴を述べ

たものはないように思われる<sup>5)</sup>。

## 2. 「V着」存在文の分類

「V着」存在文に現れる形容詞状語を考察するにあたり、「V着」存在文の類型を見てみたいと思うが、その前にここでは、本稿で用いる「動き」という語について「動作」という語とともに説明を加えておくことにする。

本稿では、動きという用語を広義と狭義で使い分ける。広義の動きとは、時間の推移とともに起こる移動などの変化のことを言う。動き(広義)には、①「(NsがNoを)置く」「(Ns)放(No)」などのような他動的な変化(Nsは動きの主体、Noは動きの受け手すなわち受動者)と、②「(Nsが)立つ」「(Ns)站(起来)」や③「(Nsが)漂う」「(Ns)飄/漂」などのような自動的な変化があるが、その動きは①②のように意志的に行われるものもあるし、③のように意志を伴わないで行われるものもある。つまり、広義の動きには動きの主体の意志性の有無は関与しない。

本稿では意志を伴う動きを「動作」と呼び、①②の動きの主体、すなわち動作の主体を「動作者」と呼ぶことにする。③のような主体の意志を伴わない動きは、動作と区別して「動き」(狭義)と呼び、その主体を「動き」の主体と呼ぶ。

このように、動きという用語には指し示す内容により2種類の意味があり、広義の動きは、主体の意志を伴う動きである動作と、意志を伴わない動きの上位に位置するものであり、狭義の動きは、広義の動きの下位に位置し、動作と対するものである。紛らわしさを避けるために、以下、狭義の動き(意志を伴わない動き)には、特にかぎ括弧をつけて「動き」とする。

|    |   |   |
|----|---|---|
| 動き | { | 動作（＝意志を伴う動き）：「(NsがNoを)置く」“(Ns)放(No)”<br>「(Nsが)立つ」“(Ns)站(起来)”<br>Nsの意味役割：動作者 |
|    |   | 「動き」（＝意志を伴わない動き）：「(Nsが)漂う」“(Ns)飄/漂”<br>Nsの意味役割：「動き」の主体                      |

動きと動作という用語の意味するところを踏まえた上で、「V着」存在文の分類を行うと、「NL + V着 + Ns」（NL は場所名詞、ここのNsは存在している人や物など「存在の主体」を表す名詞）の文型をとる存在文は、周知のように、動きが終結した後の人や物の結果状態である静態の持続を表す「静態存在文」と、動きを状態と捉え、動きの状態すなわち動態の持続を表す「動態存在文」の大きく二つに分けられる<sup>6)</sup>。次の(22)(23)は静態存在文の例、(24)(25)は動態存在文の例である。

- (22) 桌子上放着一本书。  
 (23) 门口站着一个人。  
 (24) 天边飘着一朵白云。  
 (25) 天上飞着一只鸟。

## 2. 1. 静態存在文の分類

「NL + V着 + Ns」の文型をとる静態存在文をVの具える意味特徴、Vに対するNsの意味役割によって分類すると、次のようになる<sup>7)</sup>。

### ① “坐”類

例文：河边坐着一对青年。

屋子外站着许多孩子。

Vの例：坐、站、立、躺、蹲、跪、趴、卧……

Vの意味特徴：[+姿勢義] [+意志性]

Vに対するNsの意味役割：動作者

「V着」の意味特徴：[+付着義] [+結果状態持続]

Vは多く人の姿勢、体勢を表す。

## ② “長・垂”類

例文：车窗结着冰花。

屋檐下挂着几条冰柱。

Vの例：(a) 长、生、开 (花…)、结 (果子…)、结 (冰花…)、冻 (冰…) ……

(b) 垂、倒、挂 (冰柱…)、积、敷 (雪…) ……

Vの意味特徴：[+自然発生義] [-意志性]

Vに対するNsの意味役割：「動き」の主体

「V着」の意味特徴：[+付着義] [+結果状態持続]

Vは多く自然現象の発生など、自然現象の主体や人以外の有生物が意志を伴わずに起こす「動き」で、Vに対するNsの意味役割は「動き」の主体となる。ちなみに、“坐”類はVに対してNsが動きを引き起こす主体であるが、Vが意志性を具える動き、すなわち動作のため、Vに対するNsの意味役割は動作者となる。

(a) (b) とともに、結びつくNsによって自然現象の発生 (たとえば (b) では、“挂-冰柱、积-雪”) を表すが、(b) はこの他に、“垂-柳枝、倒-树”のように自然現象の発生とは言い難いものの、意志を持たないNsが「動き」の主体となるVも含まれる。

なお、例文の“挂”は[-意志性]で、Vに対して「動き」の主体をNsにとる“長・垂”類に属するが、“饭店墙壁上挂着奖励证书。”の“挂”は[+意志性]で、Vに対して受動者をNsにとる“放・戴”類に属し、文中に現れていないが受動者の他に動作者が参与者として想定される。“挂”は“放・戴”類動詞として生起



することの方がむしろ多い。

### ③ “放・戴”類

例文：会客厅里还摆放着一架钢琴。

他的头上戴着一顶草帽。

Vの例：(a) 放、搁、摆、铺、垫、堆、挂、贴、插、装、塞、藏、摆放、陈列、  
排列 ……

(b) 戴、穿、拿、握、托、夹、背、扛、挑 ……

Vの意味特徴：[+定置義/装着義] [+意志性]

Vに対するNsの意味役割：受動者

「V着」の意味特徴：[+付着義] [+結果状態持続]

Vの意味特徴として、(a) は定置義を具えるものであり、(b) は装着義を具える、言わば「身に着け」動詞、「手に持つ」動詞とも呼ぶべきものである。

### ④ “画”類

例文：黑板上写着几个大字。

旗上绣着一只老虎。

Vの例：画、写、记、绣、织、刻、印、雕刻 ……

Vの意味特徴：[+製作義] [+意志性]

Vに対するNsの意味役割：結果

「V着」の意味特徴：[+付着義] [+結果状態持続]

Vは製作義を具え、Vに対するNsは製作物、すなわち結果である。

### ⑤ “捆・包”類

例文：袋子上捆着一根绳子。

盒子外面套着一个袋子。

Vの例：(a) 捆、系、纏、拴、绑 ……

(b) 包、罩、套 ……

Vの意味特徴：[+固定義／被覆義] [+意志性]

Vに対するNsの意味役割：道具／受動者

[V着]の意味特徴：[+付着義] [+結果状態持続]

Vの意味特徴として、(a)は多く「縛る」意味を持つ固定義を具えるもの、(b)は「覆う」意味を持つ被覆義を具えるものである。なお、Vに対するNsの意味役割に関して、例文のVOフレーズ“捆-绳子”の意味関係は「ひもで縛る」のように「動作-道具」と解釈され易いが、“系-领带”(ネクタイを締める)のようなものは「動作-受動者」と解釈され易い。

①～⑤に共通する特徴は、「V着」が[+付着義] [+結果状態持続]を具えるということである。「V着」静態存在文は、Vで表される動きの終結後、動きの帰着点である場所NLにNsが「V着」で示される結果性の状態(静態)を保持しながら、付着するような形で存在する様子を描いた文である。「V着」の表す意味の基底に「存在義」があることは言うまでもなく、上記の例文のいずれもが、「V着」を“有”に換えた通常存在文に変換可能である。つまり、「NL+V着+Ns」という構文の基底には「NL+有+Ns」という存在を表す構文があり、基底となる構文が「V着」に存在義を付与していると考えることができる。

存在義を具えた「V着」は目的語のNsに、Vの参与者である動作者や、「動き」の主体、受動者などの意味役割から「存在の主体」の意味役割への変化を迫ることとなる。たとえば、“坐”類存在文の目的語Nsは、動きの後の結果状態である静態(V着)の主体であり、Vそのものが語彙的に内包する「腰を下ろす」という動きを意志的、自主的に遂行する動きの主体、すなわち動作者としての顔は存在文では見られない。“坐”類存在文中のNsは動作者としての役目を既に終え、

存在の主体として動きに対する意志性の有無を越えたところで動きの帰着点である場所NLに静かに存在しているのである。

## 2. 2. 動態存在文の分類

「動態持続」を表す「NL + V着 + Ns」の文型をとる動態存在文とは、存在の主体Nsの意志性の有無を問わない動きが、ある場所NLで存在し、続いている様子を描いた構文である。動態存在文の「V着」は動きを状態として捉えた「動態」の持続を表す。

「V着」動態存在文をVの具える意味特徴、Vに対するNsの意味役割によって分類すると、次のようになる<sup>8)</sup>。

### ① “走”類

例文：身后走着一对夫妇，男的比女的大着许多。

池里游着五只母鸭，十分悠然。

Vの例：走、跑、飞、游、奔、奔驰……

Vの意味特徴：[+移動義] [+意志性]

Vに対するNsの意味役割：動作者

「V着」の意味特徴：[+動きの状態持続]

### ② “飘”類

例文：深蓝的天空，飘着小白帆似的云。

廊外摇动着深黑的树枝。

Vの例：飘、漂、浮、飘浮、漂浮、飞舞、滚、流、飘动、闪动、晃动、摇动……

Vの意味特徴：[+移動義] [-意志性]

Vに対するNsの意味役割：「動き」の主体

「V着」の意味特徴：[+動きの状態持続]

③ “蒸” 類

例文：蒸籠里蒸着一碗蛋羹。

铁锅里煮着不少土豆。

Vの例：蒸、煮、熬、烤、腌 ……

Vの意味特徴：[+製作義] [+意志性]

Vに対するNsの意味役割：結果／受動者

「V着」の意味特徴：[+動きの状態持続]

①と②はVが移動義を具える点で共通するが、その動きは、①が意志的であるのに対し、②には意志性が認められず、よって、Vに対するNsの意味役割は①が動作者、②が「動き」の主体ということになる。

③はVが移動義を具えない点で、①②と異なる。Nsの作られる場所 (= Nsの存在する場所) を主語に、「V着」はNsを製作中であることを表す。

動態存在文もまた、静態存在文同様、構文から「V着」に存在義が付与されていると考えられる。動態存在文において、「V着」に構文から存在義が付与されるための「V着」に求められる条件とは、動きが状態として持続していることである。持続せずに瞬間的に終わる動き、たとえば“磕一个鸡蛋” (卵を一つ割る) のような場合、動きが瞬時に消失してしまうわけであるから、「存在」という文法的意味がそもそも出てこず、「V着」動態存在文を構成することができない。

(26) \* 锅里磕<sup>zhe</sup>着一个鸡蛋。

(?? 鍋に卵を一つ割っている)

一方、“走” (歩く) のように持続可能な動きの場合、動きが持続している間は、人や物が動きとともに存在するわけであるから、「V着」に存在義が認められやすい。なお、静態存在文の「V着」は動きの後、結果状態が目に見える形で残存するため、「V着」に存在義が認められた。つまり、存在とは、静止している状

態であれ、動いている状態であれ、状態の持続のことである。状態の持続なくして、存在という概念は出てこない。

動態存在文は、「動きの行われる場所 (NL) に人や物 (Ns) が動いている状態 (V着) で存在している」ことを表しており、動きの状態持続と存在は密接に係わり合っている。

また、動態存在文を構成するにあたっては、NsとNLの間に「V着 (動態持続)」を介して、静態存在文同様、付着義が認められなければならない。③に付着義が認められることは容易にわかるが、①②においても「移動」という動きは、移動の主体が移動する場所 (範囲) に付着するかのような格好で行われるという特徴が見て取れる。

ただ、静態存在文を構成する“放着” (置いてある) などの「V着」とは異なり、動態存在文の「V着」、たとえば“走着” (歩いている) は、「V着」自体に最初から付着義が具わっているというよりは、「NL + V着 + Ns」の構文を構成することにより、基底となる存在構文「NL + 有 + Ns」が想起されて、「V着」に付着義が具わり、それと同時に、存在義につながっていくと解釈した方がよさそうである。つまり、「付着」「存在」という文法的意味の産出に関して、動態存在文は静態存在文以上に、構文の果たす役割が大きいと言える。

ところで、①②の「V着」に対するNsは一見すると、動きの主体、すなわち動いている有生物や無生物のようであるが、実のところ、たとえNsが“身后走着一对夫妇。”のように人などの有生物であっても、話者はNsを意志を持って動きを自主的に遂行する動作者としては捉えておらず、動きを伴って存在している主体、すなわち存在の主体と見なしている<sup>9)</sup>。

### 3. 静態存在文における形容詞状語

#### 3.1. 静態存在文中の形容詞状語の意味

静態存在文における形容詞状語は、鄭貴友2000や張先亮・范曉・等2010でも述べられている通り、基本的に目的語として現れる存在の主体Nsを描写対象とし、Nsにおける動きの後の結果様態、更に言うならば、存在の様を表すものがほとんどである(例文(27)～(30))。ただし、主に“捆・包”類や“放・戴”類(特に「手に持つ」動詞)をVとする存在文では「V着」を描写対象とし、動きの後の結果状態(多く固定度が高い状態)を描くものもある(例文(31)(32))。

- (27) 加上糶年轻时脸上疙疙瘩瘩地长着些青春豆，为此，总有人笑他说他的脸上是一盘红豆子加两粒黑豆。 (CCL)
- (28) 在左边的树下，地面白茫茫地长着风信子。 (CCL)
- (29) 树林里密密地长着低矮的灌木丛，地上有些潮湿；东边的地势稍高，延伸到另一座小丘。 (CCL)
- (30) 4月20日上午8点半，吉林大学外语实验室内整齐地坐着一批学员。 (CCL)
- (31) 他的肩膀上，还紧紧地系着纤绳呢。 (CCL)
- (32) 他的手里紧紧地握着一把刀；苍白的手、漆黑的刀！ (CCL)

Nsを描写対象とする状語には、Nsが動きの後に具える形状(例文(27))、色合い(例文(28))、Nsの量(例文(29))、Nsの姿勢・体勢(例文(30))などがあり、これらは広い意味で存在の様や存在の仕方を表している。

ちなみに、(27)(28)は、鄭貴友2000で述べられていた、状語が主語と目的語の両方を描写対象とする“后因”式形容詞状語文(本稿1参照)に属するものである。すなわち(27)では、にきびがでこぼこしている結果、顔面がでこぼこしており、(28)はヒヤシンスが真白なため、地面が見渡す限り真白であると解釈できる。しかしながら、Vで表される動きの結果、状語で表される様態を先ずはNsが呈するわけであるから、これらの存在文の状語も、主として目的語であ

るNsを描写対象としていると考えた方が妥当であると思われる。

Ns描写の状語を更に詳しく分類すると次のようになる。

A：Nsの形状・大きさ

- (33) 从狭窄的窗扉投射进来的斑驳光影，映照出了有上百年历史的床架；映照出了橡树或胡桃树做的柜子，上面奇怪地雕刻着棕榈树枝和小天使头部，看上去很像各种希伯莱约柜；……（CCL）
- (34) 那时的我们都穿着丑巴巴的藏蓝色校服，衣服后面大大地写着TYWZ——我们戏称其为“太原袜子”，而如今据说已演化为了“脱衣王子”。（雅虎）

B：Nsの色合い

- (35) 这块由分水镇制笔协会所立的牌子上，花花绿绿地画着几百种圆珠笔，这些笔的外观都是已经被授予国家专利，受到法律保护。（雅虎）
- (36) 说着，将左宗棠扶了起来；另有一仆擎着烛台，照着他看信；信封上浓墨淋漓地写着：“飞递左爵相亲钧启”；抽出信笺，上面只有八个字：“东朝上宾，请速入宫。”（CCL）

C：Nsの明度・彩度

- (37) 韩秋云打了一个冷战，忽地一下站了起来——这回她看清楚了，蓝天白日下面，真真切切地站着六七个穿着黄皮的东洋人。（CCL）
- (38) 每封信都清清楚楚地写着：“邮寄2420欧丁市多瑙河林区‘媒人’橡树收。”（CCL）

D：Nsの量（数量・密度・厚さなど）

a：多い様、びっしりとした様、厚い様

- (39) 商厦的老总满面红光，很神气地坐在大班台后的真皮靠椅上，屋里满满地坐着许多人。（CCL）

- (40) 近日，笔者在河北鹿泉市西铜冶村西废窑坑中一个简陋的地棚里看到，一堵长约2米、高约0.8米、厚约0.4米的泥墙上，密密实地长着一层平菇，靠近顶部的几株蘑菇，足有1公斤重，碗大的“叶片”十分水灵。(CCL)
- (41) 眼前这位银发老人，风度翩翩，气质儒雅，桌上厚厚地堆着各种书籍和材料。(雅虎)

b：少ない様、まばらな様、薄い様

- (42) 倚着围墙似的斜坡有一条小路，斜坡上零零星星地长着几株树木。(CCL)
- (43) 只见室内稀疏地摆着几张50年代部队配发的桌椅。(CCL)
- (44) 房顶上，树枝上，道路两旁，薄薄地敷着一层雪，空气里透着丝丝清冷，很清，很淡，一种情绪在心底蔓延开来……这是2010年的第一场雪。(雅虎)

E：Nsの姿勢・体勢、配置の形

a：人の姿勢・体勢

- (45) 走出洗澡间，只见客厅沙发上直挺挺地躺着一个毫无知觉、素不相识的男人。(CCL)
- (46) 在长廊尽头帐房的拐角处，婷婷玉立地站着一个女子，她的衣服下摆铺展在乌亮的地板上，使人有一种冷冰冰的感觉。(CCL)

b：物の配置の形

- (47) 车子可以直开到墓前，从梁山南峰土阙开始，司马道两侧对称地排列着华表、翼马、鸵鸟、石翁仲、石狮，两侧还有高宗的述圣纪碑和有名的无字碑。(CCL)
- (48) 姐姐头上斜斜地戴着一顶蘑菇形工作帽，脑后的发髻挽得低低，新愈后显得苍白的脸被身边的工作指示灯映出一抹苍凉的淡红。(CCL)

F：Nsの表情・態度・雰囲気

a：人の表情・態度・雰囲気



- (49) 那个座位上却大模大样地坐着一个麻木不仁、十五岁上下的小伙子。(CCL)
- (50) 高大的洋马上威武地坐着指挥官，太阳旗在凛风中发着怪啸。(CCL)
- (51) 离大路不远的绿草如茵的阡陌上，静悄悄地躺着一个汉子，他仿佛像是睡着了似的。(CCL)

b：物が醸し出す雰囲気

- (52) 大厅上冷清清地放着几乘轿子。(CCL)
- (53) 岳麓书院的正门口骄傲地挂着一副对联：“唯楚有材，于斯为盛”，把它描绘成天下英材最辉煌的荟萃之地，口气甚大，但低头一想，也不能不服气。(CCL)
- (54) 几年前，经常从广东进出福建的旅客流传着这样一个说法：坐在车上，不用睁眼看，只要听到“咣当”一声，就知道进入诏安，进入福建了。也难怪，泮水关南北两路差别很大：一边是15米宽的平坦水泥路，一边是坑坑洼洼沙包碎石路。路牌羞羞答答地写着“诏安人民欢迎您”。(CCL)

G：Nsの存在位置

- (55) 在餐厅里，桌子上摆满了在我们家工作了三十多年的杨师傅精心设计的丰盛宴席，淡蓝色的墙壁上高高地贴着一排鲜红的字：……(CCL)
- (56) 右边放着检察官的高写字台。左边，同高写字台对称，远远地放着书记官的小桌，靠近旁听席有一道光滑的麻栎栏杆，栏杆后面是被告坐的长凳。(CCL)

状語の意味類によっては、結びつくVが限定されるものもある。たとえば、Nsの形状・大きさ、色合いなどNs固有の性質を表すA・B類状語は、主に“画”類や“長・垂”類のような動きの後にNsが産出されたり、発生したりするVと共起し、Nsの姿勢・体勢、配置の形を表すE類状語は、Nsが人であれば姿勢義を有する“坐”類動詞と、物であれば定置・装着義を有する“放・戴”類動詞と多くが共起する。Nsの表情・態度・雰囲気を表すF類状語は、Nsが人の場合は言うまでもなく“坐”類動詞と共起するが、Nsが物の場合は様々な種類のVと

共起して、物の醸し出す雰囲気を描く。

ただ、F類状語のbは、物(Ns)そのものが醸し出す雰囲気というよりは、物の存在する情景(NL+V着+Ns)が醸し出す雰囲気、もう少し正確に言うならば、物の存在する情景を見て、話者が感じ取った雰囲気と言ったほうがいいかもしれない。物の存在の仕方を話者がどのように感じているか、とらえているかということを状語が表しているのである。たとえば、(54)であれば、F類状語を含む存在文の前にある文に書かれているような事情から、話者がプレートに書かれた文言を「きまり悪そうだ、恥ずかしそうだ」と感じ取っているのだと言える。Nsが人の場合も、(51)は人が醸し出す雰囲気と言うよりは、やはり、人の存在する情景が「静かで、ひっそりとしている」と解釈したほうが適当かもしれない。

状語が「V着」を描写対象とし、動きの後の結果状態を描くものの多くは、“緊緊地、严严地、结结实实地、牢牢地”など結果状態の程度(多く固定・付着の度合い)が高いことを表しており、先に挙げた例文の他にも次のようなものがある。NsのNLへの固定・付着度の高い状態もまた、広い意味で状語が存在の様を描いているのだと言える。

(57) 她长着一头稠密乌黑的鬃发，上面严严地罩着发网，显得一丝不苟。(CCL)

(58) 将军草黄色的呢军服上结结实实地绑着粗棕绳，一双指挥过无数次战役的军人的臂膀被用力反剪着捆在身后。(雅虎)

(59) 墨晗站在后面有些挫败地瘪了嘴，手里牢牢地握着手机，纤细的手指在上面飞快地动着，决定还是发条短信和靖宇曦解释一下，但是短信打都还没有打完，就收到了一条来自滕奕川的短信。(雅虎)

### 3. 2. 「V着」存在文と「V在」所在文

動作文の場合、1の(2)のように動作時の動作者(主語)の心理状態を形容詞状語で表すことが可能であったが、“坐”類存在文の場合、存在状態時にお

ける存在の主体Nsの心理状態を形容詞状語で表現することはできるのであろうか。次の例文を見られたい（(12)は再掲）。

(12) \* 院子里高高兴兴地站着几个男女。

上記のように、“坐”類存在文において、存在状態時における存在の主体（目的語）の内面の心理状態を状語で表すことは基本的にできない<sup>10)</sup>。これは決して、中国語が立ったり、座ったりしている人の心理状態を言葉として表現できないということではない。次の例文のように、「V在」所在文を用いれば、存在状態時における人（主語）の心理状態を状語で表すことが可能である。

(60) 他们高高兴兴地站在院子里说话。

但し、インフォーマントによれば(60)は「V在NL」に後続する語句がないと、容認度がいくらか落ちるとのことである。インターネットによる検索でも、この種の所在文が単独で文を成している用例よりも、次の例文のように「V在NL」の前後にNsによって支配される動作動詞を述語動詞とする語句（波線部）が連なるものの方が多い。実は、ここに“坐”類動詞を述語動詞とする「V在」所在文が、人の心理状態を表す形容詞を状語にとれる要因があるが、これについては後述する。

(61) 我高高兴兴地站在“世纪大钟”旁边与大钟合了个影，把在冰雪大世界游玩的美好记忆永远留住。（雅虎）

(62) 昨天是中秋节，晚饭以后，我和爸爸、妈妈高高兴兴地坐在阳台上，一边吃月饼，一边赏月。（雅虎）

(63) 我们弃舟登陸，抽签派定轮流守船的人，便高高兴兴躺在岸边舒适的地上。（雅虎）

ではなぜ、「V着」存在文では、存在の主体の心理状態を表現し難いのであろうか。その答えは、存在文の情報構造や使用されるコンテキスト（場面・文脈）に基づいた存在文の表現論的意味にあると言えよう。

存在文とは、周知の如く「ある特定の場所に誰あるいは何が存在しているか」を述べた文であり、特に「V着」静態存在文は「ある特定の場所に誰あるいは何が動きの後の結果状態のままに存在しているか」を述べた文である。従って、文の情報構造から言えば、目的語として具現化する存在の主体（誰あるいは何）が未知の新情報ということになる。表現論的には、存在文は話者の眼前の情景を話者の目を通して全体を見渡すかのように客観的に描写した文である。話者の視線は、背景である場所から、そこに存在している誰かあるいは何かに移る。すなわち、「全体から一点への視線の流れ」があり、それに呼応して文全体に往々にして発見のムードが伴う。未知の存在である誰かの内面の心理状態を、その誰かの存在に気付く前に話者が把握して状語として言語化することはそもそも無理があり、このことが“坐”類存在文が存在の主体の心理状態を状語で表し難くしている理由であると言える。

人の心理状態は目に見える形で外部に現れることが少ないが、人の表情や態度は外面に現れることが多いため、人の表情・態度を描く状語をとる“坐”類存在文は、心理状態を表す状語を含む(12)に比して、容認度が幾分高くなると言える（それでも、以下の文（再掲）については、インフォーマントはいくらか不自然とした）。

(13) ? 院子里无精打采地站着几个男女。

実際のところ、CCLなどによる検索では、次のようにNsの表情・態度などを表す状語を含む“坐”類存在文は普通に存在し、文脈に依存すれば(67)のように“无精打采”と“站着”を連用修飾構造で結ぶことも可能である。

- (64) 抬头望，前面矗立着一座玲珑照耀的冰山；峰尖上庄严地站着一位女神，眉目看不分明，衣裳看不分明，只一只手举着风筝，一只手指着天上——（CCL）
- (65) 你和你的朋友们聚在校门口等，旁边却孤零零地站着一位小姑娘。（CCL）
- (66) 张村村头，短墙边，树影下，静静地站着三三五五的人群。（CCL）
- (67) 齐天城的城门就在前面，门口无精打采地站着几个侍卫，正在争论着什么。（雅虎）
- (68) 他的旁边毕恭毕敬地站着两个跟班。（CCL）
- (69) 终于这一天，某年某月某日，侯先生回来了，自然，身边还羞答答地立着我奶奶的干女儿：“呸！孽障呀孽障，你可给我丢死人了。”（CCL）
- (70) 钓鱼台的大门从早到晚漂漂亮亮地常年大开着，但是大门两侧永远笔直地站着几位全副武装的军人，很少有人敢在这个散发着威严的大门前停留张望。（CCL）
- (71) 机场上整齐地站着一排欢迎队伍，队伍前头，他看见博古、张闻天和早已熟悉的周恩来，……（CCL）

3.1でも触れたが、Nsを描写対象とする状語には様々な意味があり、“坐”類存在文の場合、Nsの醸し出す雰囲気（例文（64）～（66））、表情・態度（（67）～（69））、姿勢・体勢（（70）（71））と、可視性の程度が低いものから高いものまで、連続体を成す形で存在する。そして、それらは全て、Nsの存在の様を表している。

この他、“站着”と結びつく状語にはNsの存在する位置（高さ）を表すものや、Nsの色合いによってNsの存在する密度（量）を表すものもあり、やはり、存在の様、存在の仕方を表現している。

- (72) 车顶上高高地站着一位军人，竭尽全力地喊着，要求人们闪开路，让他那有紧急任务的汽车开过去。（CCL）
- (73) 华灯初上，马路上车流汹涌，路边一个公共汽车的站牌黑鸦鸦地站着一片等

车的乘客，小汽车流矢般地从他们面前一辆辆驰过。(CCL)

ところで、任鷹2005, 29では、状語がNsの座り方を描く次の文を不自然な文とし（インフォーマントも不自然と判断）、

(74) ? 台上端端正正地坐着主席团。

不自然な理由を“由于存现句中的述语动词所表示的不是具体的动作，因此，一般不能在动词前使用对动作的样态加以描摹的状语，而且越是生动、形象的描摹状语，越是不宜使用。”（下線は引用者）と述べる。しかし、筆者はインターネット上で次のような用例を見つけた。

(75) 苏晨阳微微抬手示意，他身后的幕布缓缓拉开，众人的目光一齐看了过去，只见台上放着一张桌子，桌子上整整齐齐地摆放着十双崭新的女鞋，更令人惊讶的是，台上端端正正地坐着十位身着相同礼服的姑娘，身体和脸都被屏风挡住了个严严实实，看不见庐山真面目，唯一露出来的是十双纤纤玉足。(雅虎)

(76) 广场中央临时搭起的台上端端正正坐着一个人，他在调度各个单位的位置，让他们排队领取选票去投放，他大声地呵斥着，仿佛在放牧羊群。(雅虎)

“坐着”と連用修飾関係を結ぶ“端端正正”は動きの様を描く状語ではなく、“笔直地、整齐地、歪歪斜斜地、规规矩矩地”と同様にやはり存在の様を表す状語である<sup>11)</sup>。にもかかわらず、(74) が不自然とされるのは、状語の表す意味とは別のところに原因がありそうである。それは恐らく、文脈の伴わないフリーコンテキストの単文として示されていることが原因か、あるいはNsの定性が原因であると考えられる。いずれにしろ、“坐”類存在文が存在の様でもあるNsの姿勢・体勢を描く状語をとれないことはない。

しかしながら、そうは言ってもやはり、“坐”類動詞がNsの姿勢・体勢の様を

描く形容詞を状語にとって「V着」存在文を構成する頻度は、「V在」所在文を構成する場合に比べてあきらかに低いと言える。試みに、両者の用例を、“坐、站、躺”の“坐”類動詞と、姿勢・体勢を描く形容詞状語である“笔直地、整齐地、整整齐齐地、端正地、端端正正地、规矩地、规规矩矩地、歪斜地、歪歪斜斜地”の組み合わせごとに、それぞれCCLで検索してみると、生起数は表のようになる。なお、「V着」存在文、「V在」所在文ともに生起例が無かった「形容詞状語+V」の修飾連語については表に記していない。

表 1

| 形容詞状語/V   | 「V着」存在文<br>NL+形容詞状語+V着+NS | 「V在」所在文<br>Ns+形容詞状語+V在+NL |
|-----------|---------------------------|---------------------------|
| 笔直地 / 坐   | 0                         | 12                        |
| 整齐地 / 坐   | 3                         | 2 <sup>12)</sup>          |
| 整整齐齐地 / 坐 | 0                         | 2                         |
| 端正地 / 坐   | 0                         | 2 <sup>13)</sup>          |
| 端端正正地 / 坐 | 0                         | 15                        |
| 规规矩矩地 / 坐 | 0                         | 14                        |
| 笔直地 / 站   | 1                         | 26                        |
| 整齐地 / 站   | 1                         | 4                         |
| 整整齐齐地 / 站 | 2                         | 2                         |
| 端正地 / 站   | 0                         | 1                         |
| 端端正正地 / 站 | 0                         | 3                         |
| 规规矩矩地 / 站 | 0                         | 1                         |
| 整齐地 / 躺   | 0                         | 1 <sup>14)</sup>          |
| 歪斜地 / 躺   | 0                         | 1                         |

表を見てわかるように、存在の主体の姿勢・体勢を表す形容詞状語は「V着」存在文中に生起できないわけではない、すなわち生起すると文法的に不適格な文になるというわけではなさそうだが、生起頻度に関して言えば「V在」所在文の方が圧倒的に高い。また、既に見たが、存在の主体の心理状態を表す形容詞状語に至っては、「V在」所在文は構成できても、「V着」存在文を構成することは基本的に不可能であった。では、なぜ“坐”類動詞をVとする「V在」所在文は「V

着」存在文に比して、形容詞状語の使用に関して制限が緩やかなのであろうか。

「Ns + V在 + NL」の文型をとる所在文は、「NL + V着 + Ns」の存在文を単純に変換した構文ではない。「V在」所在文には、この文固有の構文的意味があり、「V着」静態存在文の構文的意味「ある特定の場所に誰あるいは何が動きの結果状態のまま存在しているか」を述べた文とは異なるものである。すなわち、「V在」所在文とは「特定の人や物が動きの後、どこに結果状態のまま存在しているか」を述べた文であり<sup>15)</sup>、一見、存在文と表裏の関係にある構文のようにも思われるが、話者の視点は既知の存在であるNsにあり、Nsが人であれば、Nsの動き(V)を軸に事態(文)を展開させることができる。よって、“坐”類動詞をVとする「V在」所在文の場合、Nsは単なる存在の主体ではなく、動きの主体、厳密に言えば、動作者でもある。動作者であるが故に、「V在NL」の前後にNsによって支配される動作動詞を述語動詞とする語句(下記の例文の波線部)を容易に連ねることができるのである。

(77) 他们站在院子里说话。

(78) 昨天是中秋节，晚饭以后，我和爸爸、妈妈坐在阳台上，一边吃月饼，一边赏月。

(79) 杨穿着睡衣坐在起居室的沙发里，正在想着该如何打发这一天漫长的假日。

(80) 忽然，远远望见两个人民军战士站在第三条车道上向我们行军礼，首席告诉我他们这是想搭车。

また、Nsが動作者であれば、当然、動作文の如く、動作者の心理状態や表情・態度、姿勢・体勢を表す形容詞を状語にとることも容易になる。(77)(78)の「V在」の前に心理状態を表す“高高兴兴地”を加えると先の例文(60)(62)になり、(79)に動作者の表情・態度を表す“无精打采地”を加え、(80)に姿勢・体勢を表す“笔直地”を状語に加えると、それぞれ次の文ができあがる。



- (79') 杨穿着睡衣无精打采地坐在起居室的沙发里，正在想着该如何打发这一天漫长的假日。(CCL)
- (80') 忽然，远远望见两个人民军战士笔直地站在第三条车道上向我们行军礼，首席告诉我他们这是想搭车。(CCL)

このように“坐”類動詞をVとする「V在」所在文は存在義と動作義が融合した構文であり、話者がNsに視点を置いて述べた事態叙述文の一種ということもできる。一方、「V着」静態存在文はNsの存在に意味・表現の重点が置かれた純然たる存在文であると言える。

#### 4. 動態存在文における形容詞状語

動態存在文における形容詞状語は、基本的には、①目的語として現れるNs（存在の主体）を描写対象とし、Nsの具える外面上の様態を表すもの、②「V着」（動きの状態持続）を描写対象として、動きの状態の様、すなわち存在の様を表すもの、の二つに分けられる。

- (81) 早晨，天气晴朗，天边淡淡地飘着几朵白云，海水就像天色一样蔚蓝、明净，锦缎般闪着银色的光辉。(CCL)
- (82) 眼前无边无际的绿浪，一漾一漾地漂浮着，金黄的、浅粉的、深红的、淡紫的花朵。(CCL)

(81) の状語“淡淡地”は、空に漂う白い雲の「うっすらと」した様を、(82) の状語“一漾一漾地”（＝漾漾地）は波に漂う色とりどりの花が「ゆらゆらと」揺れ動く様を描き、それぞれ、Nsの具える外面上の様態、動きの状態（V着）の様、を表している。

①の状語が表すNsの外面上の様態とは、具体的に言えば、存在の主体Nsが動いている時に呈する厚さ（例文(81)）、量（83）、明度・彩度（84）などである。

- (83) 萨达特在被送进马迪医院时还穿着他的鲜血浸透了的军服，嘴里大量地流着血。(CCL)
- (84) 在那沾满了灰尘的暗色的叶片之间，很鲜明地闪动着一点点的黄叶——这是那即将到来的秋寒之触角。(CCL)

また、Nsの存在する高さ（存在位置としての高さは厳密に言えばNsそのものが具える性質ではないが）を表すものもある。

- (85) 蔚蓝静穆的空中，高高地飘着一两个稳定不动的风筝，从不知道远近的地方，时时传过几声响亮的爆竹，——在夜晚，它的回音是越发地撩人了。(CCL)

①に属するものは、ほとんどが人以外の物を表すNsの様態を描く状語であり、Nsが人（Vに対しては動作者）であることの多い“走”類存在文（“走、跑、飞、游、奔、奔驰”を述語動詞とするもの）の状語が、動いている時の人の心理状態を描くものはCCLでは見つからなかった。先に見た静態存在文（“坐”類）では、存在文の情報構造や表現論的意味から、静態存在時の人の心理状態を描くことは基本的に不可能であったが、動態存在文の場合も同様であると思われる。

また、外面に現れる人の表情・態度を描く状語を持つ“走”類存在文についても、述語動詞が“走、跑、飞、游、奔、奔驰”のものを中心に調べたが、CCLでは見つからなかった。静態存在文とは違い、Ns（人）の表情・態度を描く形容詞が動態存在文の状語として現れることは稀なようである。

ただ、外面に現れるNsの様態でありながら、状語が人の表情・態度ではなく、人以外の有生物の様態を描く次のような“走”類存在文がある。

- (86) 在辽远的天边孤零零地飞旋着一只鸽子。(伊藤2009)

この文は、伊藤2009で、目的語位置のNsを描写対象とする状語（同2009では

「動作主描写性副詞」と呼ぶ)の例として挙げられていたものである。

“孤零零地”はNsの存在の様を描いているのであり、動きそのものの様を表しているのではない。“孤零零”(独りぼっちでぽつんとしている様子)である動き方というのは通常考え難い。(86)は、話者が「ハイタカが遥かかなたの大空を飛びまわっている」情景を「ハイタカがぽつんと寂しげに大空に存在している」と捉え、「V着」存在文で表現した文である。“飞旋着”には構文から存在義が付与されていることは言うまでもない。

次の例文(87)(88)は、Nsの醸し出す雰囲気を表すF類状語を含む静態存在文であるが、「V着」が静態持続か、動態持続かの違いはあるものの、(86)に近似している。いずれも、話者がNsの存在の様をぽつんとして寂しげなものにとらえている。

- (87) 只见门外孤零零地站着 一个三十开外的男子，牵着头小毛驴，青色长衫，瓜皮小帽，手中掌着一杆旱烟。(CCL)
- (88) 水库还未开始贮水，混凝土结构的大堤居高临下地俯瞰着干涸的水库底，那里孤零零地散落着一些即将被淹没的废弃房屋和灌木丛。(CCL)

また、次の“蒸”類動態存在文の例(89)は、E類状語を含む静態存在文(90)(91)に通じる。

- (89) 一般情况是一进餐厅门口，就能看见一口大锅，里面热汤嘟嘟，横七竖八地熬着肥大的草鱼，令人即刻垂涎欲滴！（雅虎）
- (90) 草地上横七竖八地躺着人，他们已浑身疲乏得不能再走，伤势重得无法挪动了，彼得大叔只好把这些人一个个搬上马车，送到医院里去，……(CCL)
- (91) 一些居民正在水中抢搬衣柜等日用品，没有被淹没的古镇街道上也横七竖八地放着居民们搬上来的各种生活用品。(CCL)

(89) の“横七竖八地”は草魚が鍋の中に「ごちゃごちゃに入り乱れている様」を描いており、(90) (91) のほうもNsがNLに「ごちゃごちゃに入り乱れている様」を表現しているが、いずれの文の状語もNsの存在の様を表しているのだと言える。

任鷹2005, 29では、“存現句中の动词主要不是用以表示具体的动作，而是用以表示抽象的存现状态，词义已在一定的程度上被抽象化，或者说，抽象的存现义是动词在句中获取或得以实现的语义，可从多个方面得到证明。”と述べ、存現文中では動きの様態を描く状語は、“生动、形象”（描写性に富み具体的）なものであればあるほど生起できないとする。

果たして本稿で既に見たとおり、「V着」静態存在文では動きの様を表す形容詞状語は、「ある特定の場所に誰あるいは何が動きの後の結果状態（静態）のままで存在しているか」を表すという「V着」静態存在文そのものが具える構文的意味と真っ向から対立するため、生起できなかった（注11参照）。では、一見すると動きを表しているとも思える「V着」動態存在文においても、動きの様を描く状語を用いることができないのであろうか。

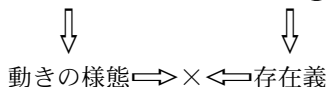
任鷹2005, 29-31では、次の“走”類動態存在文 a が b に比べて、容認度が低いのは、状語が動きの様を表しているためであるとする<sup>16)</sup>。

(92) a ? 在辽远, 辽远的天边, 自由自在地飞旋着一只鸽子。(任鷹2005)

(92) b 一只鸽子在辽远、辽远的天边, 自由自在地飞旋着。(任鷹2005)

動態存在文である a は、「V着」に構文から存在義が付与されているため、動きの様（動き方）を描く状語“自由自在地”が存在義を具える“飞旋着”を連用修飾することが難しくなるというわけである。任鷹2005の言わんとするところを图示すると次のようになる。

? 在辽远、辽远的天边，自由自在地                      飞旋着 一只鹞子。



確かに、動き方が「自由自在」というのはわかるが、存在の仕方が「自由自在」というのはわかり難い。

一方、同じくbの状語も動きの様を描いているのにもかかわらず文が成立するのは、任鷹2005によればbが「誰が何をした(している)か」を表す「叙事句」(事態叙述文)であり、文中の述語動詞が動作者の動作を表しているからだとされる。つまり、bは動作文であるため、当然、動き、厳密に言えば動作の様を描く状語をとることができるというわけである。aの“飞旋着”は構文が付与する存在義を具えた動きの状態(動態)の持続を、bの“飞旋着”は動作者の意志が伴った動作の持続を表している。

次の文は筆者がインターネット上で見つけたものであるが、“飞旋”をVとする「V在」所在文に、上記の例と同様、動きの様を表す“自由自在”を状語に置いた例である。

(93) 看着小鸟、老鹰自由自在地飞旋在天空中，正朝快乐和幸福飞去，心中又掀起一阵羡慕，钩起了我无限遐想！！(雅虎)

「V在」所在文の場合、「V着」存在文とは異なり、動き(動作)の様を描く状語をとることが可能である。それは、先にも述べたが、「V在」所在文は、話者がNsに視点を置いて述べた事態叙述文の一種だからである。(93)の“飞旋在”には、存在義がいくらか認められるものの、意志性や動作性の面では、(92)aの“飞旋着”に比べて断然高いと言える。また、(93)のような「V在」所在文は通常、単独で現れることは少なく、多くその前後にNsによって支配される動作動詞を述語動詞とする語句が置かれることは既に述べたとおりであるが、ここでも

波線部のように [+意志性] の動作動詞が用いられており、Nsの“小鸟、老鹰”は存在の主体というよりは動作者として機能していると言える。

更に言うならば、“自由自在”は動作者の意志性や制御性と極めて密接な関わりを有する語である。“自由自在”を状語に使う、鳥たちが思いのままに、速度や高度、方向を制御しながら空を飛ぶ様を表すには、鳥たちが意志を具え、動きを制御する主体、すなわち動作者としての「顔」が必要である。であれば、なおさらのこと、“自由自在”は状語として動作文である (92) bや、動作文に類する (93) に現れるのが最も適当であり、鳥が存在の主体としての顔を持つ (92) aに現れるのは「場違い」ということになる。

ところが、任鷹2005, 29の仮説に反するかのように、一見すると状語が動きの様子を描いているかのような動態存在文がないわけではない。先に挙げた(82)がそうであり、また次のような文も同様である。

- (94) 如果忘记当前的残迹, 我本可以欣赏一下这大好的江北风光: 河堤两岸蹒跚地游着芦鸭, 伴了泊船的倒影, 堤坡上坐着戴笠帽的老渔夫。(CCL)
- (95) 他前面踉踉跄跄地走着 一个五十多岁的老头。(CCL)
- (96) 水面上轻飘飘地浮着一层海产植物, 全部是取之不尽的海藻类, 这类植物, 我们已经知道的, 至少有二千多种。(CCL)
- (97) 刚刚下过雨的马路上蹦蹦跳跳地走动着青蛙。(郑贵友2000)
- (98) 清新的空气里悠长悠长地回荡着鸟鸣声。(郑贵友2000)

これらの文の状語は、任鷹2005の主張するV(動き)そのものを描写対象として動きの様子を描く語というよりは、「V着」(動きの状態持続)を描写対象とし、持続する動態の様子を描く語であると言った方が適当であると思われる<sup>17)</sup>。従って、これらの状語となる語には全て動態の持続を描写すべく、[+ 反復性/持続性]の意味特徴が見てとれなくはない。以下を参照されたい。

“一漾一漾” (=漾漾)：ゆらゆらと揺れ動いている様

“蹒跚”：ひよろひよると歩いている様 (例文は泳いでいる様)

“踉踉跄跄”：よろめきながら歩いている様

“轻飘飘”：ふわふわと漂っている様

“蹦蹦跳跳”：ぴよんぴよんと飛んだり跳ねたりして動き回っている様

“悠长悠长”：時間的に長い様

また、このことを裏付けるかのように動態存在文の状語には、次のような持続性を表す語句も用いることができる。

(99) 大汉的头上有个很深的伤口，不停地流着血。(CCL)

(100) ……，虽然打得“格叭格叭”地炸响，靠左边的一条黑尖牛，却怎么也抬不起腿来，嘴里不住地流着白色的涎水。(CCL)

(101) 有趣的是，今天的乌鲁木齐市，川流不息地跑着中巴车、出租车的同时，也跑着铃铛叮当响的“六根棍”马车。(CCL)

(102) 外边流行什么歌，家里就日夜不息地飘动着杂乱的歌声。(CCL)

この他、擬声語もまた動態存在文の状語としてよく用いられ、動態の様子を描くが、

(103) 堤上长着一行行杨柳，堤下潺潺地流着澄清湛蓝的河水。(CCL)

(104) 老武进门一看，见窑里“嗡嗡”地飞着好多红头苍蝇，窑洞顶上熏得发了黑色，地下摆着好多盆盆瓮瓮，土炕上铺着块破席子，病人直直地躺在上边，脸上青一块红一块，…… (CCL)

(105) 锅里正呼噜呼噜地煮着东西，此外还有烤鱼的味道。(CCL)

川の流れる音や、ハエの羽音、煮物を煮る音のように、動態とともに現れるこ

これらの音にも、反復性・持続性が認められる。

このように考えると、(92) a が不自然な理由は“自由自在”がNsの意志性や制御性と密接に関わる動きそのものの様を表していること以外に、“自由自在”に「+反復性/持続性」の意味特徴が認められ難いということも関係していると思われる。

なお、Nsを描写対象とし、Nsの具える外面上の様態を表す状語として具現化する形容詞は、たとえば(81)(83)からそれぞれ(81')(83')に変換可能なように、動きの状態持続とともにある存在の主体Nsの性質を表しているために、形容詞そのものに「+反復性/持続性」の意味特徴が見られなくても、動態存在文の状語になることができるのだと言える。

(81') 早晨, 天气晴朗, 天边飘着几朵淡淡的白云, 海水就像天色一样蔚蓝、明净, 锦缎般闪着银色的光辉。

(83') 萨达特在被送进马迪医院时还穿着他的鲜血浸透了的军服, 嘴里流着大量的血。

最後に、上で述べた特徴が見られない、言わば典型性に欠ける「V着」動態存在文の状語の用例を挙げておく。

(106) 秋天的北京, 颐和园的小路上, 匆匆地走着一个小保姆, 她是回家探亲回来, 现在要回主人的家里去。(CCL)

(107) 轮船在一个夜半缓缓靠近黄浦江口, 隐隐听得生命的潮声在脚下喧哗, 我的眼里无声地流着青春的泪……(CCL)

(108) 在浑浊的空气里, 胆怯地飘着一些低语谈论声, 还有药房里的复杂的气味。(CCL)

(106)(107)の状語は「V着」を描写対象とし、持続する動態の様子を描いていると思われるものの、状語となる“匆匆”(あわただしい様)、“无声”(声や



音のしない様)には反復性・持続性が認め難い。

また(108)の状語“胆怯地”(びくびくしている様で)は文中に現れていない声の主の表情・態度を表しているかのようであり(既に述べたように人の表情・態度が状語として「V着」動態存在文に現れることは稀である)、またNsの様(声のびくびくしている様)を描いているようでもある。いずれにせよ、状語をとる「V着」動態存在文の典型的な文からは外れているように思われる。

そもそも存在文は文章語(書面語)として小説の地の文などで多用される傾向があるが、上の例文も通常の会話(口頭語)におけるものではなく、極めて文学的色彩の濃い表現であり、言わば、日常言語とは異質の修辭的効果をねらった「破格」の表現であるとも言え、それ故にこれらの形容詞が動態存在文の状語として生起可能なだと説明することができるかもしれない。

## 5. まとめ

以上、本稿で述べたことを表にしてまとめると、次のようになる。

表2 「V着」静態存在文における形容詞状語の描写対象と意味

| 描写対象       | 意味  |
|------------|---|
| 存在の主体 (Ns) | <p>Nsの様態</p> <p>(例) 脸上<u>疙疙瘩瘩地</u>长着些青春豆。(形状)</p> <p>(例) 衣服后面<u>大大地</u>写着TYWZ。(大きさ)</p> <p>(例) 在左边的树下, 地面<u>白茫茫地</u>长着风信子。(色合い)</p> <p>(例) 每封信都<u>清清楚楚地</u>写着:“邮寄2420欧丁市多瑙河林区‘媒人’橡树收。”(明度・彩度)</p> <p>(例) 屋里<u>满满地</u>坐着许多人。(量)</p> <p>(例) 树林里<u>密密地</u>长着低矮的灌木丛。(密度)</p> <p>(例) 房顶上, 树枝上, 道路两旁, <u>薄薄地</u>敷着一层雪。(厚さ)</p> <p>(例) 客厅沙发上<u>直挺挺地</u>躺着一个毫无知觉、素不相识的男人。(人の姿勢・体勢)</p> <p>(例) 司马道两侧<u>对称地</u>排列着华表、翼马、鸵鸟、石翁仲、石狮。(物の配置の形)</p> <p>(例) 那个座位上却<u>大模大样地</u>坐着一个麻木不仁、十五岁上下的小伙子。(人の表情・態度)</p> <p>(例) 张村村头, 短墙边, 树影下, <u>静静地</u>站着三三五五的人群。(人の醸し出す雰囲気)</p> <p>(例) 大厅上<u>冷清清地</u>放着几乘轿子。(物の醸し出す雰囲気)</p> <p>(例) 淡蓝色的墙壁上<u>高高地</u>贴着一排鲜红的字。(存在位置)</p> |
| 静態の持続 (V着) | <p>動きの後の結果状態</p> <p>(例) 他的肩膀上, 还<u>紧紧地</u>系着纤绳呢。(固定度・付着度)</p>   |

表3 「V着」動態存在文における形容詞状語の描写対象と意味

| 描写対象       | 意味   |
|------------|--|
| 存在の主体 (Ns) | Nsの様態<br>(例) 天边 <u>淡淡地</u> 飘着几朵白云。(厚さ)<br>(例) 嘴里 <u>大量地</u> 流着血。(量)<br>(例) 在那沾满了灰尘的暗色的叶片之间, <u>很鲜明地</u> 闪动着一点点的黄叶。(明度・彩度)<br>(例) 里面热汤 <u>嘟嘟</u> , <u>横七竖八地</u> 熬着肥大的草鱼。(物の配置の形)<br>(例) 在辽远的天边 <u>孤零零地</u> 飞旋着一只鸽子。(雰囲気)<br>(例) 蔚蓝静穆的空中, <u>高高地</u> 飘着一两个稳定不动的风筝。(存在位置) |
| 動態の持続 (V着) | 動態の様 ([+反復性/持続性])<br>(例) 眼前无边无际的绿浪, <u>一漾一漾地</u> 漂浮着, 金黄的、浅粉的、深红的、淡紫的花朵。<br>-----<br>※状語が形容詞でないもの<br>(例) 大汉的头上有个很深的伤口, <u>不停地</u> 流着血。(持続を表す副詞)<br>(例) 窑里 <u>“嗡嗡”地</u> 飞着好多红头苍蝇。(擬声語)  |

本稿では、「V着」存在文における形容詞状語の描写対象と意味について、静態存在文と動態存在文に分けて述べた。また、これらの存在文の状語を「V在」所在文の状語と比較することにより、「V着」存在文と「V在」所在文の間の構文的意味や表現論的意味の違いを明らかにした。以下のように、まとめることができる。

「V着」静態存在文における形容詞状語は存在の主体であるNsの様態、すなわちNsの存在の様を描くのが基本である。述語動詞Vとの関わりで言えば、状語

はVで表される動きの後にNsに起こる結果性の様態を表している。この他、「V着」を描写対象とする状語もあるが、これらもまた、動きの後に残存する結果性の状態を表し、「掴・包」類や「放・戴」類（特に「手に持つ」動詞）をVとする場合、多く固定度、付着度が高い状態を表す。

動作文における形容詞状語と比較した場合、「V着」静態存在文（“坐”類をVとするもの）におけるそれは、Ns（多く人）の心理状態を描くことが基本的に不可能である。その理由は、「ある特定の場所に誰あるいは何が（動きの後の結果状態のまま）存在しているか」という存在文特有の構文的意味や表現論的意味に起因し、話者にとって未知、新情報であるNsの存在時の心理状態を、Nsの存在に気付く前に話者が読みとることが困難なためである。

存在の主体のNsの心理状態を描くには通常、Nsを主語に据えた「V在」所在文の構文を用いる。この時、「V在NL」と時間的前後関係を持つ動作を表す動詞を更に述語に据えて、文を展開させることが多く、Nsは存在の主体というよりは動作者としての意味役割を担っていると言える。主語の位置の動作者Nsは話者にとって既知情報であるため、一般の動作文同様、文中の状語に動作者の心理状態を描く形容詞を置くことが可能である。

「V着」動態存在文における形容詞状語もまたNsの様態を描くが、静態存在文とは異なり、動きの後に現れる結果性の様態ではなく、動きの状態、すなわち動態とともにある様態を表す。なお、「V着」動態存在文（“走”類をVとするもの）の状語がNsの心理状態を表すことは静態存在文同様、基本的に不可能である。また、「V着」を描写対象とし、動態の様を表す状語も動態存在文には見られるが、この種の状語には「+反復性/持続性」の意味特徴を具える形容詞や擬声語などが用いられることが多く、持続中の動態（V着）と融合する形で動態の様を描いていると言える。

### 【注】

1) 「場所+有+ヒト・モノ」の存在文（狭義）と区別する意味で、ヒトやモノのありかを表す

- 「ヒト・モノ＋在＋場所」の構文を「所在文」と呼ぶこともあることから、本稿ではこの構文の拡張文型である「ヒト・モノ＋V在＋場所」を「V在」所在文と称することとする。
- 2) 郑贵友2000, 94-117参照。
- 3) 郑贵友2000, 159参照。
- 4) 郑贵友2000, 180-182参照。
- 5) たとえば、刘月华1983では目的語を描写対象とするM3状語の例として、“等我去打点开水，咱们热热的(=地)来壶茶。”のような動作文とともに、存在文の“那一湾池水多年来已成为茂盛的苇塘，乱蓬蓬地长着芦苇。”も挙げられている。
- 6) 宋玉柱1991, 96-125、张先亮・范晓・等2010, 49-61参照。なお、张先亮・范晓・等2010では、「V着」存在文を「活動動詞存在文」と「非活動動詞存在文」とに分けるが、これらはそれぞれ「動態存在文」「静態存在文」に相当する。
- 7) 李临定1986, 73-91、齐沪扬1998, 60-82、张先亮・范晓・等2010, 82-83、97-112参照。
- 8) 李临定1986, 73-91、齐沪扬1998, 60-82、张先亮・范晓・等2010, 97-112参照。
- 9) 大河内1982に出現・消失文に関してだが、“周家来了一个客人。”(周さんの家にお客がきた)、“我们班走了三个同学。”(我々のクラスでは三人の同級生が去った)などの例を挙げて同様の指摘をしている箇所がある。「これらの文は誰かの意志でその動作がおこなわれたのではない。おのずとそうなのである。文頭にあるのは場所で、目的語の位置に主動者がくる。間の動詞はその主動者にかかわるものであるが、意志的におこなわれたものではない。少なくとも話し手はそのような意識でレポートしている。」(大河内1982, 39)
- 10) 次の文は、一見、状語がNsの心理状態を表しているような静態存在文であるが、马兰奇先生注意的，是一件表现平衡木体操的铜雕：一段没有任何支点的木条上，若有所思地坐着一位体态优美的女运动员。(CCL)
- “若有所思地”(何かを考えている様子)は、話者が女子選手の様子を見て彼女の内面(心理状態)を推し測った言い方であり、Nsの心理状態というよりはNsが外面に醸し出す様子・雰囲気を表していると言った方がよい。
- 11) 任鷹2005が仮説の裏付けとして挙げた例文(74)は適当とは言い難いが、仮説自体は間違いではない。たとえば、次の(a)・(b)が成立するのに対して(a')・(b')が言えないのは、

この仮説に述べられているように、状語が動きの様を表しているからである。

(a) 院子里站着几个男女。

(b) 教室里坐着几个学生。

(a') \* 院子里慢慢地站着几个男女。

(b') \* 教室里匆匆忙忙地坐着几个学生。

静態存在文である (a)・(b) に動きの様を表す形容詞を状語に持ってくることは当然ながら不可能である。なお、次の (c)・(d) は動作文であるため、動きの様を表す形容詞を状語に置くことができる。

(c) 说完她慢慢地站起来，头也不回地走去。(CCL)

(d) “想得真真切切的。”朱丝婷说着，挑战似的反那个旧的棕色厨房茶壶放在桌上，匆匆忙忙地坐了下来。(CCL)

12) “整齐地”や“整整齐齐地”と、“坐”類動詞が結合した修飾連語のうち、“我穿戴整齐地坐在酒店里。”“今天白莲穿得整整齐齐地坐在客厅，……”“陆武桥一个人衣着整齐地躺在床上，……”のようなものは“整齐地”や“整整齐齐地”がNsの身なり(波線部)を描写対象としており、座り方が整然としていることを表した文ではないため、該当例から外した。

13) うち1例は、次のように“端正”の前に“严肃”を並列させたもの。

劳动部长李伯勇，作为《劳动法》的起草主持者严肃端正地坐在“提案说明人”席上，……(CCL)

14) 但し、例文は次のようにNs(波線部)が有生物でないもの。

近日沿着这条公路从耶路撒冷前往拉姆安拉，发现公路西侧的商店已被夷为平地，取而代之的是长约9米、重达10吨左右的水泥预制件整齐地躺在那里。(CCL)

15) 荒川2000によれば、「V在NL」を述語とする構文には本文で述べたような構文的意味を持つ静態(動きの後の結果状態)を表すタイプの他に、文脈や語気によって変化(動きの過程)を表すタイプもあるとのことである。荒川2000では“坐”類動詞をVとする次の例文を挙げている(日本語訳も荒川2000)。

他走进来，一下子坐在椅子上，再也站不起来了。(かれは中に入り、どっかと椅子に腰かけると、もう立ち上がることができなかった)

你坐(在)这儿吧。(ここにすわったら)

- 16) なお、伊藤2009では、存在文中における状語の容認度の違いを、事象意味論を用いて、事象の作用域の違いから説明している。
- 17) (98) の状語“悠长悠长地”は「V着」のみならずNsも描写対象としていると言えなくもない。

### 【引用文献】

- 荒川清秀 (2000) 「“V在～”と“在～V”のちがいは?」, 相原茂・他・著『中国語教室 Q&A101』: 81-83頁。東京: 大修館書店 (2000)。
- 伊藤さとみ (2009) 「描写性副詞と事象構造」, 沈力・赵华敏・主编《汉日理论语言学研究》: 212-222頁。北京: 学苑出版社 (2009. 6)。
- 大河内康憲 (1982) 「中国語構文論の基礎」, 寺村秀夫・他・編『講座日本語学10 外国語との対照 I』: 31-52頁。東京: 明治書院 (1982)。
- 野田耕司 (2011) 「中国語の形容詞状語の表す意味について—動作文の場合」, 『熊本学園大学文学・言語学論集』第36号: 23-62頁。
- 李临定(1986)《现代汉语句型》。北京: 商务印书馆 (1986. 4)。
- 刘月华 (1983) <状語的分类和多项状語的顺序>, 《语法研究和探索(1)》, 北京: 北京大学出版社。  
(本稿は、刘月华・著《汉语语法论集》: 93-121頁。北京: 现代出版社 (1989. 7)。に拠る)
- 卢建 (2003) <摹物状語的引申及主观化渠道>, 『中国語学』第250号: 68-84頁。日本中国語学会。
- 齐沪扬 (1998) 《现代汉语空间问题研究》。上海: 学林出版社 (1998. 10)。
- 任鷹 (2005) 《现代汉语非受事宾语语句研究》。北京: 社会科学文献出版社 (2005. 8)。
- 宋玉柱 (1991) 《现代汉语特殊句式》。太原: 山西教育出版社 (1991. 10)。
- 张先亮・范晓・等 (2010) 《现代汉语存在句研究》。北京: 中国社会科学出版社 (2010. 9)。
- 郑贵友 (2000) 《现代汉语状态形容词的“系”研究》。武汉: 华中师范大学出版社 (2000. 1)。

### 【参考文献】

- 澤田浩子 (2007) 「定名詞句が現れる存現文」, 『中日理論言語学研究会第8回研究会発表論文集』。  
<http://cjt1.doshisha.ac.jp/data1/08-sawada.pdf> 2013年11月29日最終閲覧

- 赫琳 (2003) 〈“NP+在+NPL+V着”及其同义句式语用研究〉,《语言科学》2003年第4期 (本稿は、赫琳・著《动词句同义句式研究》:209-224页,武汉:崇文书局(2004.6)。に拠る)
- 李劲荣 (2007) 〈指宾状语句的功能透视〉,《中国语文》2007年第4期:331-342页。
- 王立弟・顾阳 (2000) 〈“宾语指向”的状语修饰语〉,陆俭明・主编《面临新世纪挑战的现代汉语语法研究》:248-263页。济南:山东教育出版社(2000.12)。

### 【用例出典】(引用文献からのものは除く)

- (中学生): 晓华・编著《中学生形容词词典》。上海:少年儿童出版社(1992.7)。
- (HSK听力自测): 朱子仪・郑蕊・编著《HSK听力自测 高级水平(1)》。北京:北京语言文化大学出版社(2001.6)。
- (重叠): 王国璋・吴淑春・王干楨・鲁善夫・编著《现代汉语重叠形容词用法例释》。北京:商务印书馆(1996.12)。
- (常用词): 李晓琪・刘德联・他・编《汉语常用词用法词典》。北京:北京大学出版社(1997.6)。
- (用法): 郑怀德・孟庆海・编《汉语形容词用法词典》。北京:商务印书馆(2003.12)。
- (新编): 安汝磐・赵玉玲・编著《新编汉语形容词词典》。北京:经济科学出版社(2003.4)。
- (作文): 鲁允中・主编《作文词典(增订本)》。北京:商务印书馆(1997.11)。
- (雅虎): 中国雅虎 <http://cn.yahoo.com/>  
360度雅虎全能搜 <http://search.cn.yahoo.com/>
- (CCL): CCL语料库检索系统, 北京大学中国语言学研究中心  
[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp?dir=xiandai](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai)

### 【付記】

査読委員の先生方より貴重なご意見、有益なご助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。